

# サングラスに込めた三つの思い



## つくる責任・つかう責任を考える

～持続可能な生産と消費のあり方とは～

第2回

ロート製薬社員の長岡里奈さん（写真）は、社内ベンチャー支援プロジェクトに手を挙げ、2021年5月「アイフォースリー合同会社」を立ち上げ代表社員として活躍している。目薬ボトルの製造過程で出た廃プラスチックからサングラスを製造・販売するとともに、売り上げの一部を途上国の健康問題に充てることを目指している。

ロート製薬入社2年目に社内ベンチャーに応募されたときの経緯は？

2019年4月に入社して商品企画に配属されます。あるとき製造工場に行くことになって、そこで目薬ボトルがたくさん廃棄されているのを知りました。ボトルには安全性や有効成分を守るための高い品質基準が設けられています。基準に満たないものは廃プラスチックになりますが、「なにか再利用できないものか」と考えていました。

途上国支援とはどのようなものですか？

造して販売することと同時に、途上国の健康問題を支援したいという企画提案をしました。

大学2年生のとき初めてボランティアとしてインドに行きました。そこでスラム街に暮らす人たちを見たとき、思わず泣きだしてしまっただけショックを受けました。一緒にいたインド人の知り合いからこう言われました。「泣いていても、あなたは国に帰れば幸せな暮らしを送るでしょう」。このまま何もしなければ偽善に終わる……そう感じた私は帰国後、ゼミでインド農村部の健康問題について学び、その後もインドへ行ってボランティア活動をしました。

貧困などの問題で健康を手でできない人たちがインドにはたくさんいます。この課題を解決したいという気持ちは今も持ち続けています。現在はそうしたインド人の目の健康を事業を通して、特に白内障の予防や手術などに関する支援ができればと考えています。

「つくる責任・つかう責任」をどのように考えますか？

企業の社会的責任は言うまでもありませんが、でも一番は、お客さんのために良い製品をつくることだと思っています。お客さんから支持を得たうえで、さらに環境にも責任を持ってください、という声があればつくる側もその責任を果たさなければなりません。一方、消費者は利便性だけでなく、事業者の社会的責任やサステナブル経営のあり方などを調べて商品選択することも大切だと思います。

アイフォースリーのサングラスは、あえて100%リサイクルで、フレームを塗装しないことにこだわっています。ちよつと高い価格になっていますが、サングラスとしての使いやすさや効果、使い捨て商品にはないクオリティーがあります。開発においてフレームの形成に相当な時間を費やしましたが、環境負荷に貢献できたと思っています。

社名のアイフォースリー（eye for three）には「三方良し」の思いがあります。一つは、サングラスを購入された人の目を守る。二つ目は、途上国で暮らす人の目を守る。三つ目は、廃プラの再利用で地球環境を守る——これら三つの意味を込めています。

（聞き手・原田修身）